

自分を見つめ直させて頂きます

吉原秀東

6月の或る日、コンプライアンス違反事項が多数表面化した為に芸能活動を無期限休養する**という**或るタレントが記者会見でのたもった発言だ。

聞いていて、あれっ・・・なんかおかしいぞ??なんか変だなあ〜とクエスチョンマークが頭の中をよぎった。

悪いことをしたのは自分だろう?その張本人が自戒の念を込めて自分を見つめ直す=反省するのに、「させて頂く」必要が一体どこにあるのだろうか?というのがクエスチョンマークが駆け巡った原因だ。

この人に限って、誰か上司から「お前は自分を見つめ直せ」とでも言われたのだろうか?と思わずにいられない。「させていただく」という表現は「させて貰う」に比べて謙譲語が二重になっているので、**させられる**相手がいない状況で使うのは不見識としか思えない。

しかも、自分が犯したコンプライアンス違反事項への強い(かどうか不明だが)反省の弁として「自分を見つめ直す」のに、「させていただく」必要は無かろう。自分の気が済むまで見つめ直したら如何か。誰もキミが自分を見つめ直すことを期待していないかもしれない(とは言い過ぎかもしれぬが・・・)環境の中では「自分を見つめ直させて頂きます」は尚更奇妙に響く。世間一般から「自分を見つめ直す」ことをどれほど期待されているのだ・・・、とその思い上がった神経を疑いたくもなる。自分のことを余りにも買いかぶり過ぎているのではないか?

それはさておき、昨今、二重謙譲語が氾濫していて聞き苦しく思っていたので、このタレントの記者会見は違和感がマックスであった。視点を変えてみれば、「させていただく」という表現に自分は慣れていないのかもしれない。言葉は時代と共に変容するというが、それを感じ取れない自分は時代遅れということか?

SNSを通じて世間と向き合っていると、相手の目や表情を見ながら自分の言葉を紡ぎだすことは難しくなるであろう。せめて、話し相手に正しい日本語で情緒ある会話を致したいものだ。